第5回　新伊方町誌編さん委員会

【日　時】　令和5年8月3日　 13:30～14:21

【場　所】　伊方町役場　3階会議室

【次　第】　1　開会あいさつ　濱松委員長

　　　　　　2　議事

1. 新伊方町誌編さん構成について

　　　　　　3　その他

【構成員】　**委員長**　　濱松一良

**副委員長**　谷村栄樹

**委員**

中川未来（愛媛大学准教授）

井村桂子（元伊方町役場職員・伊方地域）

井上利彦（元伊方町役場職員・瀬戸地域）

宇藤　司（元伊方町役場職員・三崎地域）

高嶋賢二（佐田岬半島ミュージアム副館長）※欠席

稲田美樹（図書館司書）

**町誌編さん業務受託者**

　　　岡田印刷株式会社

**事務局**　　藤川輝之（総合政策課課長補佐）

松下洋二（広報秘書係 係長）

林　優里（広報秘書係 主事）

中元真理（広報秘書係 主事）

議事内容

1　開会あいさつ

委員長開会あいさつ

2　議事（1）新伊方町誌編さん構成について

　「（1）新伊方町誌編さん構成について」岡田印刷より説明

（委員）

　B案の下にC案というのがありますけれども、これはなんでしょうか。

（岡田印刷）

　C案は全く別の別物として55の集落を弊社のほうがご提案しております、別冊のところに入れ込んだ形のご提案です。本体のほうには、55の集落というのをいれずに、別冊として集落の特集を作る、という案をC案としております。

（委員）

　その場合の、55集落の分を本編に入れて一冊にする方法と、C案のように別冊にする方法ですよね。別冊にしたときに、本体のページ数は、500ページで変わらなくて、別冊が単純に増えるということですか。

（岡田印刷）

　いえ、本体のほうが減るというイメージです。

（委員）

　なら、あくまで500ページというのは変わらなくて、予算も変わらない、ということですかね。

（岡田印刷）

　はい。

（委員）

　これ、ABC案というのがありますけど、一番インパクトのある55集落の関係を、一つは最後に、一つは先頭にという提案なんですけれとも、今回のこの町誌というのは、この55集落、これが一番インパクトが大きいというふうに考えるんですね。

ですから、手にとって、最初に1ページ目を、大体その一般的には先頭から開けていくと思うんですよ。最後から見ていく人はおそらく少ないんじゃないかと思いますので、大体の人は、この1ページ目にインパクトがあるかどうかで、本のイメージを判断するということが普通ではないかと思います。これ、デジタル版においても、アナログ版においても同じだと思うんですよね。そのネット上でいうと、検索エンジン上で検索すると、どっとサイトが出てきますよね。そのトップページを開けて、もし見たときに、ちっちゃくて見えないとか、絵がない、写真がない、動画がない、そういったサイトっていうのは、すぐに閉じられてしまうという傾向があると思うんです。ですから、アナログ版の本についても、やっぱり同じことだと思うんですよね。最初に1ページを開けて、インパクトが大きければ、どんなものを書いてるかっていうことで、順次見ていくような形になろうかと思いますので、私はできましたらこのB案、先頭に持っていって良いように思います。

（委員）

ちょっと細かいところなんですけど、第6編第3章第4節の、デジタル図書館っていう名称は、電子図書館が正しいので直していただきたいのと、人物のところ、「ご存命」というよりは「ご活躍」のほうが響きが良いと思います。

あと、前の町誌に載っていない方で、河野兵市さんも載せたほうがいいんじゃかいかなと思います。人物でいうときりがないんですけれども、太陽パーツの城岡さんとか町に貢献してくださっているので、そんな方とか、三崎地区の方も誰かおられたら、バランスいいんじゃないのかなと思います。

（委員）

　55集落のところに年少者ベスト100人、高齢者ベスト100人っていうのがあるんですけれども、意味があるのかなっていうふうに思います。100人にする意味があるのか、年少者と高齢者に分ける必要があるのか。例えば今の話に関係するんですけれども、集落の名人、達人とかそういった方を載せてあげたほうがより身近な部分でてくるのかなと。逆に年少者とか、高齢者とかどうやって分けるのかという話になってくるんじゃないかな。なるべく身近な人を選んであげたほうが、それと人数を限定するんじゃなしにやったほうがいいんじゃないかというふうに思います。

（委員長）

ありがとうございます。先ほどの発言で、何か、岡田印刷さんのほうでご回答できることはございますか。

（岡田印刷）

デジタル図書館は町のほうから言われてたのでそれは修正忘れですね。人物の方もこれはもう町のほうの意向で、この人を入れてくださいっていう要望があったら対応いたします。

（委員）

これ人物の関係、なかなか選ぶというのは難しいと感じるんですけども、ただ、今度、地区別の座談会で地区に入ってきますよね。その時に、職員さんも当然行ってもらうと思うんですけれど、その地区の方々の話を聞く中で、こういった方がっていうその掘り起こしを行うというやり方も一つの方法ではないかと思います。

（委員長）

それと、先ほどおっしゃられたその集落の名人、達人、これが名人、達人というのがいいのかどうかいうのはありますけれども、そこら辺はどうですか。

（岡田印刷）

こちらの方は高嶋さんが執筆されるというお話でしたので。こちらの方ではちょっと、各集落の執筆はしない形になります。

（事務局）

前回の会議の中で、お書きしますよと言っていただいております。

（岡田印刷）

　ですので、高嶋さんの執筆次第になります。

（委員）

何がベストかっていうのを含めて、高嶋さんになるんですかね・

（岡田印刷）

そこは前段階ですので、あくまで55の集落については高嶋さんに担当していただく、ということになります。

（事務局）

いただいた意見をまた内部でも調整しまして、執筆者が高嶋委員というところもありますので、そういった中で町から選ぶのか、地区から出していただくのかというところも含めて内部協議を行いまして、また皆様との情報共有しながら進めて参りたいと思います。

よろしくお願いします。

（委員長）

今後進めながら調整をしていくということですかね。

（事務局・岡田印刷）

はい。

（委員）

A案とB案でページ数が異なってるのは、具体的にどこがどう変わってるからページ数が違うんですか。

（岡田印刷）

頭のところに、町の概要っていうのを持ってきてますので、その部分のページが増えております。A案のほうは、町の人口、階層年齢等々を本文の第3章に入れてるんですけれども、その分をB案では一番頭のところに持ってきたんですよ。

（委員）

そこでページ数が変わったと。分かりました。ありがとうございます。

これ、今いただいてる資料で、第4編のところで、「(執筆者確認)記述は難しい」というのはどういう意味ですか。

（岡田印刷）

「考古学から見た伊方町」につきましては、県の埋蔵文化財センターの石貫さんに依頼をしてるんですけれども、古代からの記述をどうですかというお話を申し上げたところ、一応、自然関係からの記述はできますけど、古代からの記述はちょっと難しいかなというお話をいただいてますので、原稿が上がってみないと、どこまで書いていただけるかというのはまだ把握できない状況であります。

（委員）

ページ数を見ると、これ前回高嶋委員の方から、いらんのと違うとかいう意見もあったかと思いますがそれでもやっぱり入れた方がいいというご判断になったということですか。

（事務局　松下）

前回、高嶋委員の方からは第5編の鉱業ですけれども、伊方町、今鉱業はほとんどない、というところで、もともと4ページあったところを1ページに減らしております。

（岡田印刷）

高嶋委員からあったのはですね、考古学は石貫さんも書いていただけるとは思うんですけれども、できれば古代からの分も記述できないかな、ということでした。先生のほうにご依頼をしたところ、ちょっとどこまで来るかわからないけれども書いてみますというお話だったんで、ここで記載させていただいております。

（委員）

これ、こんなにページ数いるんですか。遺跡とその発掘なんですけれど。

（岡田印刷）

遺跡の調査、発掘調査はされてないんですけども、一応遺跡関係の調査関係は、県の埋蔵文化財センターがされてますので、その分の記述はある程度できますよというお話でしたので、一応22ページの想定にはしております。ただ実際にそこまで書いていただけるかどうかっていうのは、図版とか、そのあたりの資料書きも含めて、どこまで行けるのか、というのは未定の状態です。

（委員）

ページ数は多分今後の内容に従って変わってくるのだと思いますが、前回からの議論の流れでいうと、やっぱりその考古学っていうところに、伊方がそんなに目立つところではおそらくないので、考古学から見た場合。だからそこまでは触れるのは構わないですけれどもそこまで力を入れなくてもいいんじゃないかなと。他のところで大切なところがあればそちらにページをまわしても、いいんじゃないかなと思います。

それで言うと、例えば防災ですね。防災のところとかやっぱり町民の方はもう、関心が高いんじゃないかと思いますし、国や県の原発関連、また南海トラフ関連で大規模な訓練など、行われていますので、例えばそういったところをちょっと手厚くするとか、皆さんが興味関心が高いところ、町が大切だと思うところを、今後また洗い出していただいて、調整していただければと思います。以上です。

（委員長）

ありがとうございます。今の分は事務局での調整でよろしいですか。

（事務局）

岡田印刷さんとも相談しながら、この防災の観点については、今回の電気事業のところで、原子力関係のところは、30ページ増量はさせていただいたんですけども、それに関連してっていうところもありますので、この防災というところもやっぱりちょっと増やしたいなとは思います。それに伴って先ほど考古学との調整も進めながら、ページ数の増減というのは、臨機応変に行っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

（委員）

先ほど言われましたけども、この町誌は町民の方、それから、いろんな方に読んでいただける町誌、興味のある町誌といった観点からいきますと、このB案の方が、インパクトがあっていいのではないかと私は思います。

それからあと、出ました人物、ここについても、やはりいろんな有名人、貢献された方、いろいろおられます。そういったことで、何人に限るということじゃなくて、この人物についても、ある程度紹介してあげた方がいいのではなかろうかと思います。

（委員長）

はい。これに対して、事務局の方なんかございますか。

（事務局）

はい。人物等につきましても、いろいろと他にもいろんな方おられます。今思いついたのが、過去、プロ野球で新人王を取った方もいます。そういった方も協力いただけるなら、そういった方も入れてもいいのかなと思ったり、またそういった人物のピックアップですね、そういったところもしていきたいなと考えております。

（岡田印刷）

人物につきましても、旧町誌関係で紹介した人は、かなり昔の方っていうのも入れるかどうかっていうことも、一応事務局とすり合わせながら、させていただけたらとは思います。

（委員）

細かいことがちょっと幾つか気になってるんですけど、各課には、課長はじめ構成というか、確認みたいなのをして、全部終わってるんですか。

（事務局）

先月、7月25日までにお願いしますことで、投げかけまして各課からここを直して欲しいというところをいただいております。今後もまた気づいた点があれば随時、受け付けますのでまた教えてくださいということで伝えております。

（委員）

私はちょっと私も教育委員会におるんで、ちょっと気になるところは、何点かあるんですけれど、局長がもうそれでいいんだったらいいんですけど、例えば、2ページ目の真ん中辺に学校教育と社会教育があるんですけど、社会教育のほうは教育基本計画、第1節になってるんですけど、社会教育基本方針とかいうのはもちろんあるんですけど、こちらの方だけ基本計画があって、学校教育にはなくて、学校教育なので、学校教育の推進を一番に持ってくるのもそうなのかなと思うんですけども。それとか、例えば学校教育で児童生徒数の推移とかの説明になるんですかね、内容等のところに、幼稚園の状況があるんですけれども、幼稚園はないんでのけたらいいかな、とか、社会教育のところの愛護班はもう今ないんで、多分。というところがちょっと気になったんですけど、どんなでしょうか。

（事務局）

はい。先ほど言った幼稚園は直し忘れですね。愛護班っていうのは、合併前からもうなくなったんですか。

（委員）

合併後はもうなかったように思います。今日からはないですよ、とかいうのはないんですけど、そういう仕事上で何か問い合わせたらもう今も実際にはなくなってるとかは聞いたことありますね。今は完全にないと思います。

（事務局）

青年団とかもですね、町の青年団っていうのが、10年ぐらい前ですかね、消滅してるんですけども、そういったところも、青年団に限って言えば、各地区の青年団かなくなっていって、町全体としての青年団が機能しなくなったっていう流れで、町全体の青年団がなくなったっていう経緯があるんで、そういったところでそのなくなるまでのその歴史というかそこら辺は、残したいなというところで、そういうなくなった団体とかの記述とかも、あったほうがいいのかなということで私と教育委員会で話はしています。

（委員）

　合併後はあったかもしれないですね。

（事務局）

合併前になくなっておればこの愛護班というのは、なくてもいいかなとは思います。そういった考えで行っていきたいと思っています。

（委員）

基本的なことでもう1回お尋ねしたいんですけれども、コンセプトの関係で、「選ばれる伊方町」、これは一体誰に誰を想定しているんですか。町民だけ、それか、移住者とか全部ひっくるめて選ばれる人ですか。

（事務局）

それは、町内も町外もひっくるめてです。

（委員）

それで前回の会議の時に、原発を前面に出すっていう話があったと思いますけれど、原発、はどうしても負の部分とプラスの部分があって、非常に危ないっていうのが、福島原発事故以来あると思うんですけれど、それを克服するために、いろんな訓練をやったり、避難施設とかあったりしますね。

それともう一つ、財源的に当然優遇されているっていうのもあると思うんですけれど、当然、そこら辺を書いていくんではないかと思うんですけど、町民サービスが他の団体と比べて、伊方町のほうが優遇されているっていう認識っていうのを、町民の皆さん自体がどれだけ感じているのか、ということだと思うんですよ。

先日ちょっと八幡浜警察署の方で会議がありまして、高齢者の免許返納得点で、そのタクシー券がありますよね。八幡浜市が5000円、伊方町が1万5000円。で、八幡浜の人に言わせると、伊方町はいいなっていう話なんですけど、でもそれが伊方の人、の高齢者、免許を返す人は1万5000円おそらくみんなもらっているっていう認識があるんですよね。ですから、そういった内容をやっぱり、強く書くっていうことも、とても重要ではないかと思います。それとさっき言われました、選ばれる伊方町、例えば移住者がこれ見たときに住むときに他の団体よりか、サービス的にかなり優遇されてるっていうことを記述があれば、それを見ることによって、移住自体も増えていく、住んでみたいかな、っていう人も増える可能性もあるということなので、そこら辺は逆にしっかりと書いていた方がいいのかなと思います。

（事務局）

ありがとうございます。現在、町の方でもこの町誌と並行してタウンプロモーションっていう業務を進めておりまして、伊方町をPRしていこう、というところで、いろんなことをやってます。その中の一環として、まずどうPRしていくかっていうところで、そういった補助金とか、そういった外にPRしていく素材っていうのを、各課から募集して今まとめてる状況にありますので、そういったところの情報も使えるのかなと思います。そのような伊方町が誇る、優遇される面っていうところもまた情報提供を岡田印刷さんにさせていただいて、そういった面を打ち出すっていうところも記載していけたらなと思います。ありがとうございました。

（委員）

今の話と関連して例えば、インタビューとか序編とかもしくは提言のところとかで、この10年ぐらいでね、移住されてきた方とかのお話といった紹介というか、声を載せるのはどうですかね。コミュニティは当然昔から先祖代々住んでらっしゃる方と新しく来られた方で構成されるわけですから、そういった方の顔も見えれば、面白いんじゃないかなとは思います。どなたを選ぶかどうかが難しいと思いますけれど。

そういう人たちの顔が見えたら、外に対して、こういう手厚い住民サービスというのも絡めて、アピールポイントにはなるのかもしれません。

（委員長）

町内外から選ばれる伊方町という観点から言えば、やはり何を強調していくのか、しっかりととらえていく必要があると思います。今、全国的にはやっぱり人口減少問題、防災、そういったところは、どの都道府県もいろんな対策、課題としてとらえて対策を打っているわけですよね。だからその高い人口減少、防災というのは強調していくべき項目かなというふうに思います。今伊方の、いわゆる子育て支援施策、県下一だと思ってます。そういう良い点をしっかりと強調をしていくことは、大事だと思ってます。これはもう、結婚、出産、子どもの成長に応じて、伊方町がどういった支援策を打っているのか、しっかりとしたフロー図にまとめてもらってます。日本有数の子育て支援の町を目指しておりますのでそこら辺は、必要になってくると思います。今、健康長寿のまちということで、町長が言う集落のグループホーム化、集会所を拠点とした、いわゆる共助の高齢者福祉対策というのをやってます。それも、顔認証という技術、最新鋭の技術を使ってます。これがDX基盤とかデジタルライフにも結びつくことで、当然健康管理の情報なんかを集めてますんで、健康長寿というところにも結びついてきますね。　タウンプロモーションなんかもそうですけれども、これだけの大々的に、町のレベルというプロモーションを本年度から本格的にやっていくわけですけれども、そういったところはないと思うんですね。そこら辺を、また協調をしていける部分はやっていく必要があるのかなというふうに思ってます。その移住者の関係で言えばね、人数なんかをしっかりと出していく必要があると思うんですよ。最近の移住者の変遷、一体どの程度のボリュームで来てるのか。そういうようなものを出しつつ、移住者の声を紹介をしていく。そういうふうなところもやっぱりやっていく必要があるのかなと思っています。

原発の場合は、確かにいろんな見方がありますけれども、やはり伊方町がエネルギーの町、これはもう、やっぱり全国に誇れることだと思っておりまして、そこら辺の書き方をまずちょっと考えて、書いていただいたら、風車と共存するまちでもありますし、いろんな角度から書けるんじゃないかなというふうに思ってますので、お願いをしておきます。

基本的に私の方のからは以上で、あともう一つは、委員の皆さんが言ったことに対してどう対応してるのか、こういうやつはね、やっぱこういう会議では必要だと思います。

だから第4回で委員の皆さんが、言ったこと、第2回辺りからやっぱこの構成であるとかいろんなもんが出てくるんじゃないかなと思いますんで、そのご意見に対してどう対応したのか、そういうふうなものをやっぱり事務局としてはちゃんとまとめておいておいて、こういった委員会の場で提示をしていく、そういうようなのは必要じゃないかと思ってますのでよろしくお願いします。

（委員）

町の編さん物ですから、いいところをどんどん押し出すのは当たり前。ただ一方で、編さん過程を経て、改めて町が抱える課題というものも出てくると思うんですね。ですから、このエピローグというか、最後のところで未来へのメッセージってなってますけれど、そこに、何て言うのか建設的な反省というか、この20年間振り返って、ここは達成されたと。でもここがまだ足りない、こうしたい、ここはやっぱり改善すべきだっていうところを、打ち出せば締めとすればいいんだろうと思います。

エネルギーのことについても当然いろんなご意見があるのは確かで、それはやっぱりこういろんな角度から取り上げるべきですが、ただ一方で、それがないと現在の伊方町が、成り立ってないのも確かですから、変な言い方ですけど、みんなが嫌がるものを引き受けているっていうところはやっぱり一つの町の矜持でもあるはずですから、現在、山口でも新しい動きが出ていますが、そういうネガティブではなく、アップステアーにとらえつつも、ある程度客観性を持った叙述を心がけていただきたいなと思います。

（委員長）

はい、ありがとうございました。そろそろ、A案B案C案というのが、岡田印刷さんの方からお示しをいただきましたけれども、決をとってよろしいでしょうか。話の流れ的にはどうもB案が多いんじゃないかと思うんですけれども、このB案がよろしいと思う方は挙手をお願いをいたします。

（一同挙手）

（委員長）

そしたらこれは本日の出席者全員B案ということで、B案の方で進めさせていただく、いうことで決定をさしていただきました。ありがとうございます。

それでは、構成については以上でよろしいですか。

（一同）

はい。

3.その他

――――――　意見無し　――――――

閉会